

第118期 東京奄美会 総会・芸能祭

芸能祭 次第

司会 えぐさ ゆうこ
笑福亭 竹三

- | | | |
|------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1. オープニング | 伊是名の会 | 神々の詩／また君に恋してる～ウチナーグチバージョン |
| 2. 琉舞 | 碓 浩二 | 鳩間節 |
| 3. 歌謡 | 久永 さとみ | ルリカケス／スラヨイ黒糖 + 女性部踊り |
| 4. 歌謡 | 瀬戸内 三郎 | 相撲甚句／奄美サンサン音頭 + 女性部踊り |
| 5. 島唄 | すもも | 朝花節／国直よね姉 |
| 6. 島唄 | きゅらな一ちゃ | 請けくま慢女節／織りぎゅらさ |
| 7. 島唄 | 池田 哲也 | しゅんかね節／野茶坊節／いとう |
| 8. 歌謡 | 竿田 美也子 | 花／朝花 |
| 9. POPS | あずま まどか | ウギブギウギ／春一番 |
| 10. 歌謡 | 寿里 | 辺戸岬／与論島慕情 + 女性部踊り |
| 11. 舞踊 | 東京奄美会女性部 | 新潟おけさ～人生いろいろ |
| 12. 歌謡 | 西田 あい | 恋／ひとりにさせないで／最後の貢 |
| 13. 歌謡 | 城 南海 | アイツムギ／ハナミズキ／祈りうた |
| 14. エンディング | 城 南海・西田 あい
東京奄美会女性部 | 八月踊り(島のブルース) |
| 15. フィナーレ | すもも・きゅらな一ちゃ
池田哲也・チヂン(元田優香) | 六調 |

司会者プロフィール



えぐさゆうこ

元南海放送アナウンサー、歌手。フリーアナウンサー転身後もTBS、日本テレビなどのナレーション、イベントなどを担当。南海放送在局中に奄美シマ唄に心酔するようになり、尊敬する唄者に会ったことで人生が変わる経験をする。奄美のシマ唄の歴史や歌掛け、方言などの奥深さを知る。自分のルーツ探しと南西諸島の唄を学ぶため、父の生まれ故郷・屋久島の唄の現地調査を江草啓太とともにに行った。語りと唄を織り交ぜた舞台は、「圧倒的な表現」(スポニチ評)と評されています。



笑福亭竹三

奄美(宇検村)二世。平成21年笑福亭鶴光に入門。翌22年東京落語芸術協会にて楽屋入りし、明光(あこう)となる。4年間の前座修行の後、平成26年竹三(ちくざ)で二ツ目昇進。2016年1月30、31日両日に文化庁企画で奄美寄席を行う。主な活動拠点は東京の寄席ですが、今後も積極的に島での公演・交流等を通して奄美をアピールしたいと考えています。

スタッフ

【プロデューサー】 中濱 寛
【ディレクター】 中島 儀幸
【舞台指揮】 中村 博志 [オトコグミ]

【音 響】 武藤 肇志 [ビッグフィールド]
【照 明】 北熊 紗代 [ライティング・タッチ]





芸能祭 出演者プロフィール



きずき みなみ 城 南海

奄美大島出身。2006 年鹿児島市内でシマ唄のパフォーマンス中にその歌唱力を見出され、2009 年 1 月に「夜空ノムコウ」を手がけた川村結花作詞作曲のシングル「アイツムギ」でデビュー。

代表曲は、NHK みんなのうた「あさなゆうな」、「夢待列車」をはじめ、NHK ドラマ「八日目の蟬」の主題歌「童神〜私の宝物〜」、NHK BS プレミアム時代劇「薄桜記」の主題歌「Silence」、一青窈作詞、武部聡志作曲・プロデュースのシングル「兆し」など。テレビ番組出演・テレビ主題歌も多い。

「THE カラオケ☆バトル」では、現在番組初となる 10 冠の偉業を達成。一躍脚光を浴びる。



西田 あい

鹿児島県始良市出身。焼酎アドバイザーの資格を持つ。

2010 年に日本クラウンよりデビューシングル「ゆれて遠花火」でデビュー。平成 22 年度日本クラウンヒット賞新人賞を受賞。

昭和歌謡をこよなく愛し、テレビ番組にも多数出演する。

持ち前のキャラクターとふるさと訛りの軽快トークで、ラジオパーソナリティとしても活躍。

2016 年 10 月から、BS 日テレ「歌え！昭和のベストテン」にレギュラー出演。



芸能祭 出演者プロフィール

伊是名の会

1988年結成以来、東京を拠点に自主公演をはじめ日本各地で開催される芸術鑑賞会、学校鑑賞会やイベントに多数出演。伝統的な琉球舞踊をベースに、現代人が共感する創作舞踊と斬新な舞台で多くの観客を魅了している。2001年から海外へも活動の場を広げ、アメリカ・カリフォルニア公演を皮切りに、フィンランド、ブルガリア、インドネシア、台湾、ルーマニア、スロバキア、オーストリアや韓国を含む9カ国14都市で公演。海外でも高い評価を受けている舞踊集団。2017年は奄美・琉球世界自然遺産登録を見据えた舞踊公演を開催予定。



碓 浩二

奄美市出身。幼少より日本舞踊や琉球舞踊の手ほどきを受け、昭和60年上京。
受賞：琉球古典芸能コンクール最高賞受賞。
TV：NHK大河ドラマ「炎立つ」「元禄繚乱」「真珠夫人」「失楽園」等。
舞台：国立劇場、国立劇場おきなわ、明治座等。アメリカ、キューバ、中国等国内外で活躍。
主催：玉城流七扇会東京支部碓浩二琉舞研究所。

久永 さとみ

奄美大島出身。奄美新民謡の歌手をしていた母久永美智子の影響もあり、幼い頃からお祭りやカラオケ大会で歌う。高校卒業後上京してからも歌を続け、奄美へ帰省してからは母に新民謡を教わり、全曲久永美智子作曲のCDアルバム「奄美物語」やCDシングル「不思議な島・緑色の風」を発表。平成23年にはCDアルバム「奄美物語IV」を発表。多くの奄美郷友会懇親会にも出演し活躍中。



瀬戸内 三郎

瀬戸内町出身。昭和56年デビュー、日本クラウン所属。昭和62年「奄美慕情」、平成6年「夫婦流行歌」、平成12年「鹿児島男」発売。昭和56年から平成10年まで奄美大島にてチャリティショーを開催。平成10年奄美観光大使に任命される。
道頓堀の朝日座、中座、新歌舞伎座など多くのステージに出演し現在に至る。
趣味：ゴルフ。好きな言葉：努力。





すもも

指宿 桃子：奄美市出身。武蔵野音楽大学器楽学科卒業（ピアノ専攻）。現在同大学別科声楽コース在籍。幼少期からピアノを母に師事。これまで、故阿世知幸雄氏に三味線、安田宝英氏に島唄と三味線を師事。

伊 成美：徳之島町出身。小学校5年生より島唄を安田宝英氏に師事。徳之島では、子供に三味線指導し、様々なイベント活動に出演。平成23年進学のため上京。

2010年、安田門下の両名で島唄ユニット「すもも」を結成。島内のイベントや島唄、民舞など多くの大会に出場し受賞多数。

きゅらな一ちゃ

池田麗奈（うみ）奄美二世。**小幡美紀**（そら）奄美三世。うみとそらが東京で出会い、奄美に古くから伝わるシマ唄（民謡）を唄うために生まれたユニットです。

「第2回奄美うたのど自慢大会 in 東京」シマ唄の部で大賞受賞。

「第30～34回奄美民謡大賞」入賞。「第2回奄美フェスタ」出演。「東京奄美会芸能祭」出演。NHK「にっぽんの歌、ふるさとの歌」TV出演。

「第5回奄美島うたのど自慢大会 in 東京」シマ唄の部第3位入賞。



池田 哲也

瀬戸内町出身。幼少時代に父親より島唄の手ほどきを受け、上京後は田原俊成氏に師事。昭和48年、59年、舞踊家西崎みどり氏と新橋演舞場に出演。昭和59年から平成5年に朝崎郁恵氏と国立劇場共演。平成2年朝崎郁恵氏とニューヨークカーネギーホール100周年記念イベントで共演。東京奄美サンシン会に出演。現在奄美民謡の普及に努めている。

竿田 美也子

沖永良部二世。3歳からクラシックピアノを始め、小学校4年年生から6年生まで少女合唱団の一員として歌の基礎を学ぶ。高校卒業後、しばらく音楽から離れていたが、本当に自分がやりたいこと＝音楽、と気づき、思い立って初めてオリジナル曲を作り始める。2014年沖永良部島、神戸でファンクラブが結成され、本格的に音楽活動をスタート。何気ない日常を独自の視点で紡ぎ奏でる曲は、元気になる、心が癒やされると大好評を博す。これまでCDアルバム3枚、シングル1枚をリリース。米国テンブル大学卒業で日本語と英語を操るバイリンガル。



芸能祭 出演者プロフィール

あずままだか

徳之島町出身。2002年、河村隆一全国ツアー「真昼の月と真夜中の太陽」でオープニングアクトを務めデビュー。アコースティックギター1本で挑む姿が好評を得て、NHKの「みんなのうた」では、歌の他、作詞と原画を手がけた楽曲「リセット」がオンエアされ、その実力を認められる。

その後、シンガーソングライターとして数々の作品をリリースしつつ、他アーティストへの楽曲・詞の提供、舞台の音楽制作や出演、ラジオのDJなども行う。最近ではコーラス等で中村一義のコンサートサポートやアルバム、MVにも参加。



じゅり 寿里

与論島出身。高校時代に友人とボーカルダンスチームを結成し、自主的にイベントを運営、ライブ活動を行う。高校卒業後大阪の女子大に進学し、ソロでライブ活動を行う。大学卒業を機に上京。新栄プロダクションに所属し、歌手修業を積み、2012年5月に日本コロムビアより「辺戸岬」とカップリング曲「わたしはうたう」でデビュー。2016年5月に初カバーアルバム「青い果実たち」をリリース。

将来の夢は「与論の星」になること。2012年2月に「与論島観光大使」に任命される。趣味：テニス、カラオケ、野外フェス。特技：日本舞踊。

東京奄美会 女性部

東京奄美会女性部は、東京奄美会に準じた行事（賀詞交換会、渋谷・鹿児島おはら祭、総会・懇親会など）に参加し、あでやかな踊りと衣装（大島紬等）を披露して、東京における奄美の広告塔として大活躍しています。

渋谷・鹿児島おはら祭では、2年連続の受賞をするなど、踊りにますます磨きがかかっています。

